

# 令和4年救命救急センター充実段階評価のヒアリング対応について

令和5年3月30日

## 1. 経緯

- ・ 令和4年救命救急センター充実段階評価においては、全ての項目を原則除外せずに評価を行うこととした。
- ・ 一方、地域の実情によっては、新型コロナ診療に特化するなどの役割を担うことによって、救命救急センターが本来担うべき機能の一部を十分に果たすことができなかった医療機関も想定されるため、全300施設の内希望する48施設に対しては、昨年の評価において除外対象とした9項目について、都道府県を通して、当該施設の役割や貢献度等を含めて個別に新型コロナの影響に関してヒアリングを実施することとした。

## 2. ヒアリングの対応方針

それぞれの項目について、得られた回答への対応を下記のような方針で対応することとした。

- ・ 評価項目 7.1 年間に受け入れた重篤患者数（来院時）
- ・ 評価項目 7.2 地域貢献度

※ 項目 7.2「地域貢献度」：地域内の重篤患者数を診察している割合であって、所管地域人口当たりの当該施設に搬送された重篤患者数を全国総人口当たりの全国重篤患者数で除すことで算定する。（地域貢献度（地域内の重篤患者を診察している割合＝所管地域人口当たり当該施設に搬送された重篤患者数/全国総人口当たり全国重篤患者数）が0.5以上：2点）

### （対応方針）

全国の重篤患者数は令和元年より増えていることから、患者自体が少なかったことは原因となりえないため、新型コロナが原因という主張があり、かつ、令和元年の数値より下がっている場合には、新型コロナの影響を受けたものとして令和元年の実績に基づく点数とすることとした。（新型コロナの影響を主張していたとしても、令和元年より高い値の場合は新型コロナの影響を受けたと認められない。）

- ・ 評価項目 25 救命救急センターを設置する病院の年間受け入れ救急車搬送人員

(対応方針)

全国の救急搬送数は令和元年より増えていることから患者自体が少なかったことは原因となりえないため、新型コロナが原因という主張があり、かつ、令和元年の数値より下がっている場合には、新型コロナの影響を受けたものとして令和元年の実績に基づく点数とすることとした。(新型コロナの影響を主張していたとしても、令和元年より高い値の場合は新型コロナの影響を受けたと認められない。)

- ・ 評価項目 28 脳死判定及び臓器・組織提供のための整備等
- ・ 評価項目 32 地域の関係機関との連携
- ・ 評価項目 37.1 救急救命士の挿管実習および薬剤投与実習の受入状況
- ・ 評価項目 37.2 救急救命士の病院実習受入状況
- ・ 評価項目 40 医療従事者への教育
- ・ 評価項目 41 災害に関する教育

(対応方針)

新型コロナが原因という主張があった場合には、令和元年の実績に基づく点数とすることとした。(ただし、令和元年に実績がない場合は新型コロナの影響により実施できなかったとは認めない。)

### 3. ヒアリングの結果

	ヒアリング後 令和4年	ヒアリング前 令和4年	(参考) 令和3年	(参考) 令和2年	(参考) 令和元年
S 評価	86	83	98	104	76
A 評価	206	207	194	189	209
B 評価	8	10	5	2	7
C 評価	0	0	1	0	0